

令和8年3月16日

気候変動に関する懇談会（第9回）議事概要

1. 開催日時及び場所

日時：令和8年2月3日（火）14:00～16:00

場所：文部科学省3階1特別会議室及びオンライン会議

2. 出席者

委員（敬称略、五十音順、◎は会長）：

石川 洋一 海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門
地球情報科学技術センター センター長

鬼頭 昭雄 元 気象庁気象研究所 気候研究部長

木本 昌秀 国立環境研究所 理事長

小池 俊雄 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター センター長

高橋 潔 国立環境研究所 社会システム領域 領域長

竹村 俊彦 九州大学 応用力学研究所 教授

中北 英一 京都大学 総長特別補佐／名誉教授

◎ 花輪 公雄 東北大学 名誉教授

海洋研究開発機構 変動海洋エコシステム 高等研究所 顧問

保坂 直紀 サイエンスライター

山崎 登 国土舘大学 防災・救急救助総合研究所 名誉教授

（三枝 信子 国立環境研究所 研究担当理事 は欠席。）

評価検討部会 委員（敬称略、五十音順）：

井田 寛子 気象キャスターネットワーク 理事長

浜田 崇 長野県環境保全研究所 自然環境部 部長

文部科学省： 研究開発局長、大臣官房審議官（研究開発局担当）、環境エネルギー
課長ほか関係官

気象庁： 長官、大気海洋部長、気象リスク対策課長、気候情報課長ほか関係官

3. 議事

【議題1】「日本の気候変動2025」について

- 事務局、評価検討部会の浜田委員及び井田委員から、資料1-1、1-2及び1-3に沿って、「日本の気候変動2025」公表後の活動状況等について説明した。
- 委員からの主な御意見は以下のとおり。
 - 高等学校については教諭への説明や、授業での活用を検討されているとのことだが、中学校についてはいかがか。防災、気候変動関係では中学校の教諭からの関心も高い。
 - 普及啓発活動に際しては、特に地方公共団体等の防災担当者に届くことが大事だと考える。「分かりやすく伝える」ことを目指しているとのことだが、気象キャスターや、気候変動に関して先進的な地方公共団体の担当者など、気候変動分野に近いコミュニティに対する分かりやすさを追求する形になっていないか。地方公共団体では、防災担当者が総務などと兼任している場合等もあるので、幅広い層に向けた広報資料を作成するのではなく、本報告書を必要とする具体的な対象を想定した活動を展開することで更なる普及が期待できるのではないか。
 - 気候変動についての様々な知見を統合した本報告書や、本報告書を社会へ発信する様々な取組は国際的に先進的であるので、様々な機会を活用して、こうした取組をぜひ国際的にも紹介してほしい。
 - 広報活動の評価については、前回の報告書との比較にとどまらない目標値を定めることも必要ではないか。
 - 「本編（解説付）」について、本文にコメントを追加する形式は本文との関係性が分かりやすく、本編の内容を十分理解している層に対しても補足的な知識として解説内容を捉えやすい形となっており良い形式だと感じた。
- 事務局からの主な回答は以下のとおり。
 - 地学の教育に熱心な高等学校との関係があったこと、「日本の気候変動2025」の内容が高校生であれば理解されやすいと期待できるという観点で、今年度は授業の副教材等としての本報告書の活用可能性について意見交換をしたところ。教育現場の担い手とどういった取組ができるか、引き続き検討したい。
 - 広報資料については、御指摘の観点も踏まえて、次期報告書を検討する中で考えていきたい。

- 「日本の気候変動 2025」作成のために設置した評価検討部会の部会長である鬼頭委員から、資料 1 - 4 を示しつつ評価検討部会の任務完了と活動終了について説明した。
- 委員から特段の御発言はなく、活動終了が承認された。

【議題 2】 次期気候予測データセットの進捗について

- 事務局から、資料 2 に沿って、次期「気候予測データセット」について説明した。
- 委員からの主な御意見は以下のとおり。
 - 気候予測データセットはおおむね 5 年毎に更新するとしているが、次期気候予測データセットについてはおよそ 2027 年頃の公開を想定しているのか。
- 事務局からの主な回答は以下のとおり。
 - 次期気候予測データセットについては 2027 年の公開を想定してはいるものの、その具体的な公開スケジュールについては確定に至っていない。

【議題 3】 気候変動関連の取組について

- 事務局から、資料 3 - 1 及び 3 - 2 に沿って、気象庁及び文部科学省の気候変動に関する最近の取組について説明した。
- 委員からの主な御意見は以下のとおり。

(資料 3-1：気象庁説明資料について)

 - 気象庁からの情報発信について、気候変動関連の話題が少ない印象。ぜひ気候変動関連の話題についても定期的に扱っていただきたい。

(資料 3-2：文部科学省説明資料について)

 - DIAS の在り方を検討するにあたって、この先の IT 技術の見通しを踏まえた議論をするためには有識者会議に IT の専門家も加える必要があるのではないか。
- 事務局からの主な回答は以下のとおり。

(資料 3-1：気象庁説明資料について)

 - 気象庁の施策のうち、大きなものの一つに気候変動関連の情報を分かりやすく強力に発信することを掲げており、気候予測データセットや日本の気候変動 2025 等の報告書、環境省による気候変動影響評価報告書といった一連の枠組みが確立されてきたところで、こうしたデータセット、報告書の更なる活用につ

いて発信してきた。国内における適応策の更なる推進に向けて、関係部局とも連携しつつ努めていきたい。

(資料 3-2：文部科学省説明資料について)

- 資料には委員のみを掲載しているところ、有識者会議においては関係する専門家へのヒアリングも予定しており、御指摘の観点については現在の DIAS 関係者へのヒアリング等を通じて議論を進めたい。

【議題4】 その他

- 委員からの主な御意見は以下のとおり。
 - 気候変動に関する普及啓発については、理科離れが始まる前の段階である義務教育課程への働きかけが重要。例えば既存単元に気候変動の視点を追加する等、全ての生徒が学ぶ機会を確保することが望ましい。
 - 次期気候予測データセットについては、民間企業からの注目も高まってきていることも踏まえ、気候変動の専門家ではないユーザー向けの利用支援が重要。
 - 近年の気象災害と地球温暖化との関連の情報として、気候変動は一般に知ってほしい情報なので、気象庁トップページから気候変動ポータルページへ分かりやすくアクセスできるようにしてほしい。
 - 2050年カーボンニュートラルの達成に向けては加速度的な情報発信の推進や省庁横断的な取組の一層の展開が必要。
 - 文部科学省と気象庁の努力の成果である報告書やデータセットについて、エッセンスを考えつつ今後も力強く進めてほしい。
 - これまでの懇談会でコメントしてきた環境省等の刊行物との連携や整合性について、この数年間でよくなったと感じる。データセットが影響評価等に使いやすい形で出せるよう、今後も連携を更に進めてほしい。
 - 若年層への普及啓発活動については、受動媒体の活用など、広く届けるための工夫が必要。
 - 省庁がタイアップしてオーソライズした情報を出すことの重みをより生かしてほしい。
 - 分かりやすく伝える活動をしている気象キャスターのみなさんには、査読論文を書く経験をお勧めしたい。研究者の考え方や習慣を知ること、それを自分の言葉で伝えられるようになる。気象キャスターの方々の今後にも期待している。

- 防災に重要な課題として、分からないことも含めた等身大の科学を社会に伝え、防災に生かすための方策を考えてほしい。
- これまでに議論し公開してきた「日本の気候変動 2020」「気候予測データセット 2022」「日本の気候変動 2025」はいずれも当初の目的を達したものの、そして好評を得てきたものと考えている。一方、ここ数年の世界の平均気温が記録的に高いなどの状況を見ると、気候変動に関する最新情報を様々な手段にて発信していかなければならないと感じる。

以上